

つたのからまる チャペルで祈りを捧げた日  
夢多かりしあの頃の 想い出をたどれば  
なつかしい友の顔が ひとりひとり浮かぶ  
重いカバンをかかえて 通ったあの道  
秋の日の図書館の ノートとインクのおい  
枯葉の散る窓辺 学生時代

作詞 作曲：平岡精二

## 学生時代

賛美歌を歌いながら 清い死を夢見た  
何の装いもせずに 口かずも少なく  
胸の中に秘めていた 恋へのあこがれは  
いつも はかなく破れて  
ひとり書いた日記  
本棚に目をやれば あの頃読んだ小説  
過ぎし日よ 私の学生時代

ロウソクの火に輝く 十字架を見つめて  
白い指を組みながら うつぶむいていた友  
その美しい横顔 姉のようにしたい  
いつまでも変わらざにと 願った幸せ  
テニスコート キャンプファイヤー  
なつかしい日々は帰らず  
素晴らしいあの頃 学生時代  
素晴らしいあの頃 学生時代